

授業づくり規準（家庭科）

P（構想）

※この授業づくり規準家庭科には、中学校技術・家庭科(家庭分野)を含みます

力 要素	学習指導力 (授業における姿勢や指導方法等、 各教科等共通の授業づくりの力)	教科指導力 (家庭科の内容に関わる授業づくりの力)
児童生徒の実態把握	- 児童生徒の発達の段階を踏まえた上で、生活体験や学習経験は児童生徒によって異なることを意識している。 - 学習の方法や理解の仕方は児童生徒によって異なることを意識している。 - 児童生徒の性格や学習に対する意欲等を把握している。 - 学習集団の特質や、個と集団の関わりを把握している。 - 個々の児童生徒に対して、指導上配慮すべき事項を把握している。	- 家庭科に関する学習者の既習事項の習得状況等、学習内容の理解度を把握している。 - 家庭科に関する学習者の興味・関心、意欲等を把握している。 - 衣食住などに関する学習者の生活経験や生育環境等を把握している。
教科内容に関する知識・技能		- 学習指導要領、教科書記述の内容分析を通して、教科内容の系統性や小中、中高の連携や他教科等とのつながりを意識した指導内容を把握している。 - 教材や題材の本質を理解している。 - 衣食住などの教科内容に関わる知識や技能、探究するための態度・技能を持っている。
目標の設定	- 学習は、児童生徒自身の主体的・探究的な活動によって成立することを理解している。 - 学校の教育目標や課題を踏まえ、育てたい力を捉えている。 - 学習を通して児童生徒の自信を深め、自己肯定感を高めるという意識を持っている。	- 学習指導要領の目標及び題材の指導目標を明確に把握し、観点別評価規準の評価観点に照らして捉えている。 - 各授業の指導目標を家庭科における題材の指導目標に明確に関連付けている。
題材計画 (授業計画)	(学習指導案の作成) - 学習指導案の重要性や、目標、内容、方法等の指導案の形式の意図を理解し、指導計画を表現している。 (評価計画) - 具体的な到達目標とそのための適切な評価方法を選択・計画している。 - 自己評価、他者評価等、児童生徒が学習を改善するための手だてを考えている。	(題材計画の作成) - 学習指導要領技術・家庭科の目標及び家庭科の指導目標を達成でき、児童生徒が知識を体系的に獲得できる題材計画を作成している。 - 児童生徒の実態に合わせて、題材を選定したり、指導内容に重みを付けたり、配列を工夫したりするなど、ストーリー性のある題材計画を作成している。 2年間(3年間)を見通して、バランスのとれた題材計画を作成している。 (評価計画) - 指導目標に照らした評価計画を作成している。
授業の構成	(学習方法・形態の選択・組織) - 目標を達成するために、児童生徒の実態を踏まえた適切な学習方法や学習形態を考えている。 - 新たな知識・技能・学び方等を発見したり、習得したりする喜びを実感できる授業を行うために、学習方法を改良・開発している。 - 主体的な探究活動や問題解決を考慮して授業を組み立てている。 - 児童生徒が学習内容や学習の過程を振り返るための手だてを考えている。	(学習内容の構成) - 題材の指導内容及び題材全体の構造を深く理解した上で、学習内容を構成している。 - 題材の指導内容が教科の体系の中でどのような位置付けにあるのかを把握し、見通しを持って学習内容を構成している。 「言語活動の充実」「食育」「道徳の時間などとの関連」「倫理観」を意識して、学習内容を構成している。 - 体験や実習、調査、観察等、実践的・体験的な学習活動を通して、問題解決的な学習を構成している。

授業の構成		・題材との関わり、人やものとの関わりを大切にした授業構成をしている。 (教材・題材の選択・構成・開発) ・学習指導要領の目標及び題材の指導目標を達成するのに適しており、また、地域、学校、学習者の実態に合わせた題材を構成し、配列している。 ・指導題材を、自分自身で改良・開発している。 (板書等の計画) ・本時のねらいに即し、授業展開を予測した板書を計画している。 ・本時のねらいを達成するための有効な働き掛けや個への支援が計画されている。
-------	--	---

D (展開)

力 要素	学習指導力 (授業における姿勢や指導方法等、 各教科等共通の授業づくりの力)	家庭科における指導力 (家庭科の内容に関わる授業づくりの力)
学習環境づくり	・学習環境が、児童生徒の安全や認知にどのような効果を与えるかを意識している。	・家庭科の目標や学習内容に応じて、児童生徒の行動や認知を推測し、学習環境を創造している。 (安全指導) ・児童生徒の安全を最優先とし、調理用具等については日常から安全管理等を行っている。
学習への構えや学び方の指導	・児童生徒がどのような姿勢で学習に臨めばよいかを明確に示し、児童生徒に意識させている。 ・学習過程や自分の考えをまとめていけるようなノートづくりを指導している。	・家庭科の学び方を示し、児童生徒に意識させている。 ・家庭科の学習に関わる考え方やまとめ方、資料活用、必要な技能等の定着を図っている。
個や集団への配慮	・個への対応に具体的な配慮をしている。 ・集団における学習の大切さや、個の発言の集団への影響を意識している。	・提示物の作成や師範、ICTの活用など、視覚的な面からも分かりやすさ、学びやすさを追究している。 ・家庭科における、技能面に課題のある児童生徒への細やかな支援を計画しておき、適切な場面で効果的な支援ができるよう構想している。
音声・表情・所作等	・話し方や表情・所作と児童生徒の反応との関連を意識している。 ・場面や目的、環境等に応じて、声の大きさ、話の速さ・緩急・強弱等の話し方や表情を工夫している。	
指導技術	(言葉遣い) ・児童生徒の発達の段階に応じた適切な言葉遣いをしている。 (説明) ・分かりやすい言葉で、端的に説明している。 (指示) ・目的を意識させながら、どんな行動をすべきかを明確に示している。 (発問) ・児童生徒が何を問われているか理解できる発問をしている。	(言語) ・用語・記号を含め、家庭科での指導に適切な言語、図表等を使用している。 (説明) ・児童生徒のつまづきやすい点を推測し、理解や納得が得られるように説明している。 (安全面に配慮し、また、児童生徒のプライバシーにも十分に配慮した言葉で説明をしている。 (指示) ・ねらいや学習内容を踏まえ、必要とする場面で指示をしている。

指導技術	(板書) ・見やすさを考慮し、視覚的に構造化するなど、工夫しながら丁寧に板書している。 ・児童生徒の様子を観察しながら、板書している。 (演技・表現) ・学習場面や教材の特性に応じて、適切であると考えた演技をしている。 ・待つ時間や「授業のやまば」等を意識して授業を展開している。	・聞かせる場面と作業の場面等、きちんと切り替えを行っている。 (発問) ・ねらいを達成するために、児童生徒の思考を促したり、焦点化したりする発問をしている。 (板書) ・ねらいや学習内容を踏まえ、児童生徒の思考活動との関係に応じた技術を身に付け、板書している。 ・家庭科の特質に応じた指導技術を身に付けている。 (演示) ・家庭科での指導に必要な技術を身に付け、児童生徒に示すことができる。 (教材・教具の活用、資料提示) ・児童生徒にとって、どんな教材・教具・資料がよいかを考え、活用している。 (ICTを含む)
学習活動における即時的対応	・児童生徒の発言や行動を適切に受け止め、達成感、満足感を感じさせている。 ・学習内容に適した評価法を用意し、実施している。	・児童生徒の発言や行動の意図を読み取り、家庭科の内容や学習方法に照らして、理由を付けて認め、適切な支援をしている。 ・児童生徒の様子と授業目標との関係を捉え、指導過程を修正することができる。

C・A（評価・改善）

力 要素	学習指導力 (授業における姿勢や指導方法等、各教科等共通の授業づくりの力)	教科指導力 (社会科の内容に関わる授業づくりの力)
授業の振り返りと分析	・「指導と評価の一体化」を意識している。 ・授業によって、児童生徒がいかに変容したかについて、絶えず関心を持っている。	・家庭科の指導目標に照らして、授業や題材を振り返り、目標の達成の可否の原因を明らかにしようとしている。
改善に向けた手だて	・学習指導の方法の効果について、意識的・具体的に捉え、指導方法の改善に結び付けようとしている。	・教科指導について振り返り、児童生徒の姿から改善点を具体的にし、授業改善に生かしている。